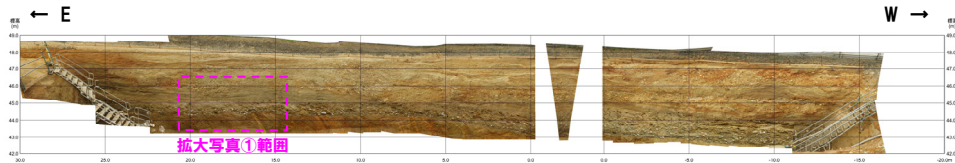


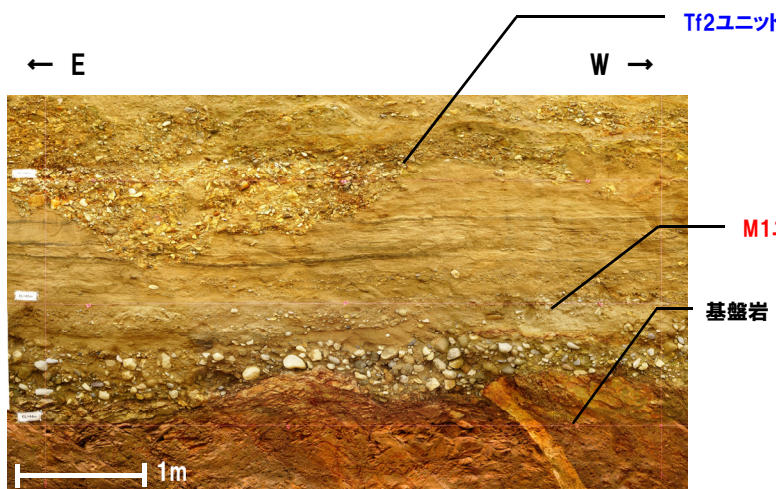
開削調査箇所(北側)

③-6 小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(2/4) -

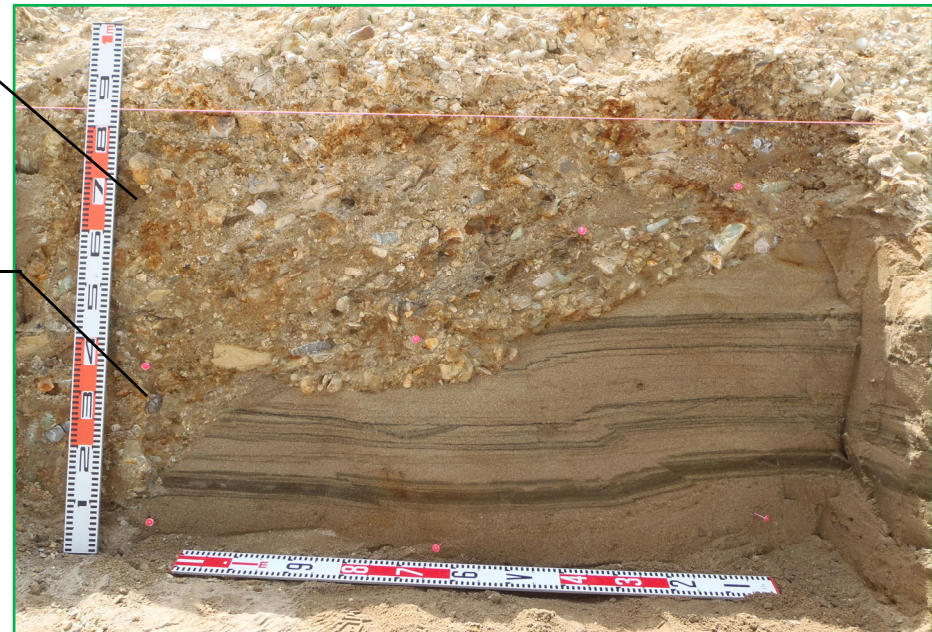
一部修正 (R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(北側)南側壁面写真



拡大写真①(解釈線なし)



拡大写真②(解釈線なし)

拡大写真①は、R1.11.15現地調査において提示したはぎとり転写試料作成前の写真を案内図として用いている。

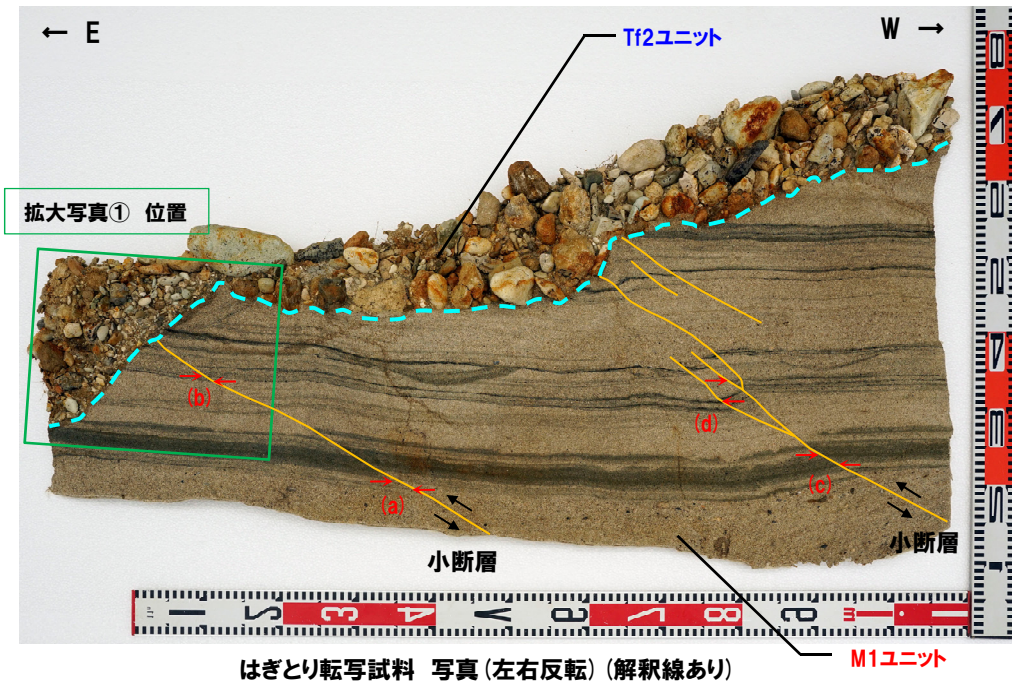
開削調査箇所(北側)

③-6 小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(3/4) -

一部修正 (R2/8/7審査会合)

【観察結果】

- 本はぎとり転写試料は、M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められること及びTf2ユニットは砂礫層であるため、Tf2ユニットの基底面直下の変位量が小さい場合においても、小断層による変位・変形の有無が確認できる比較的細粒な層相を呈する断面である。
- F-1断層に関連する小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Tf2ユニットの基底面直下まで剪断面が連続し、変位が認められる。
- 小断層に顕著な見かけ変位量の減衰は認められない。
- Tf2ユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- Tf2ユニット中の比較的細粒な層相を呈する箇所に、剪断面は認められない。
- Tf2ユニット中の礫は、基底面(チャンネル壁)に沿って比較的定向配列しており、堆積構造の乱れは認められない。



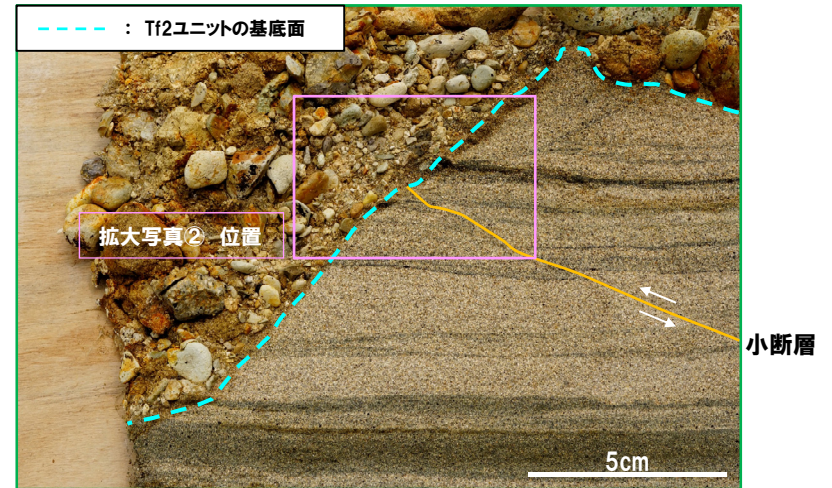
拡大写真① 位置

はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線あり)

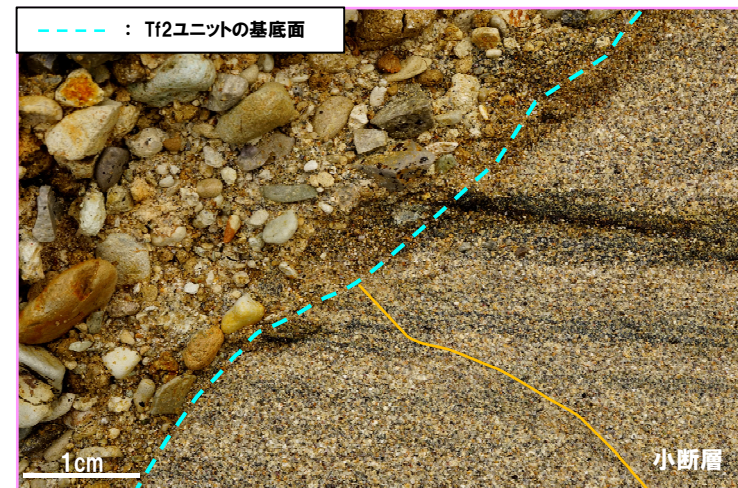
M1ユニット

← : 見かけ変位量の計測箇所(砂層中の葉理のズレ)

見かけ変位量 : (a) 約24mm, (b) 約12mm
(c) 約21mm, (d) 約25mm



小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)



小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

開削調査箇所(北側)

③-6 小断層上端付近の詳細観察-南側壁面追加はぎとり転写試料(4/4)-

再掲(R2/8/7審査会合)



はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線なし)

M1ユニット



小断層上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線なし)



小断層上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線なし)

余白

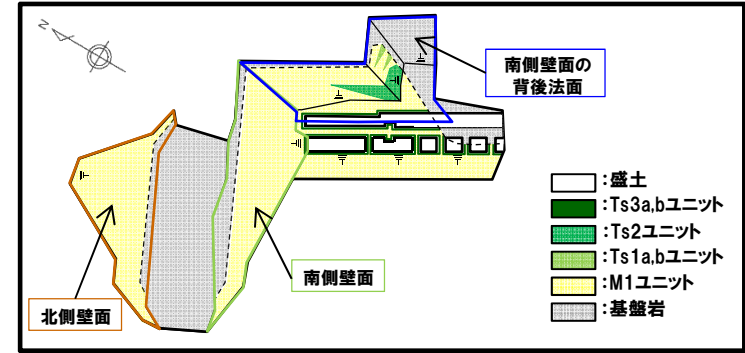
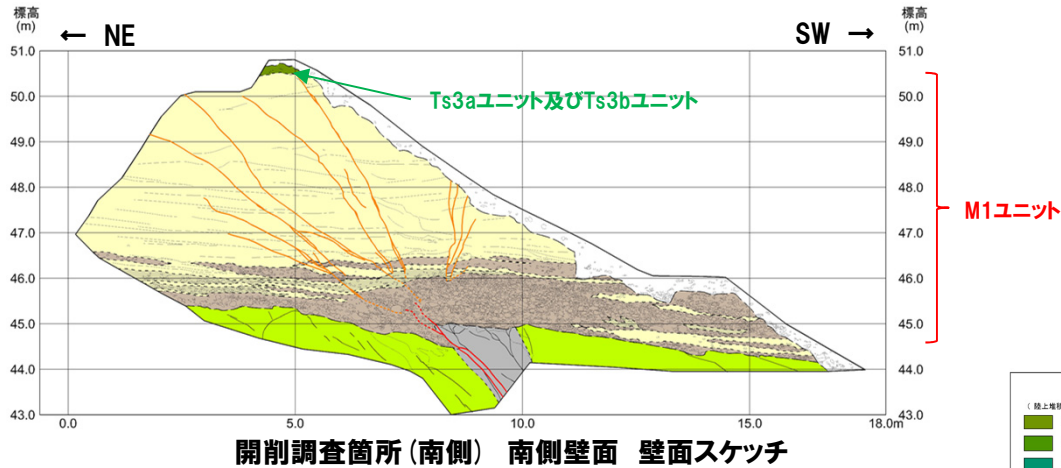
開削調査箇所（南側）

余白

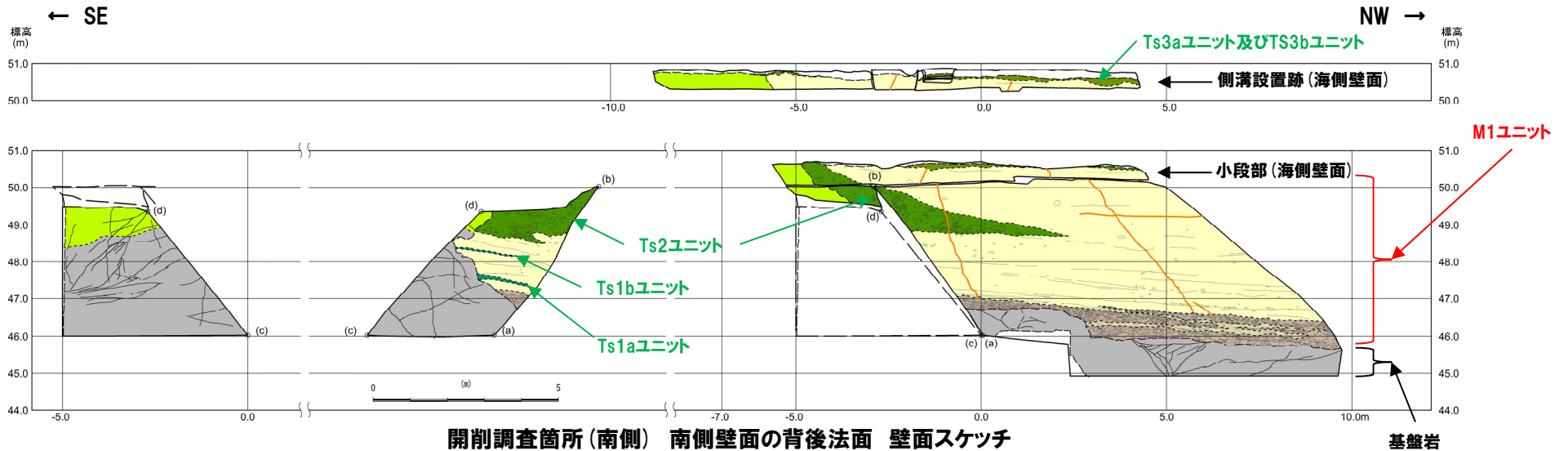
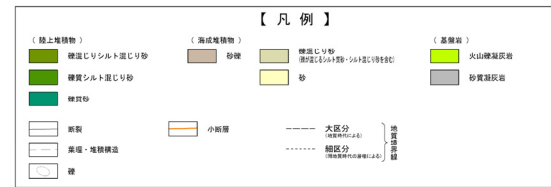
開削調査箇所(南側)

①開削調査箇所(南側)壁面スケッチ

一部修正 (R2/8/7審査会合)



開削調査箇所(南側)平面模式図

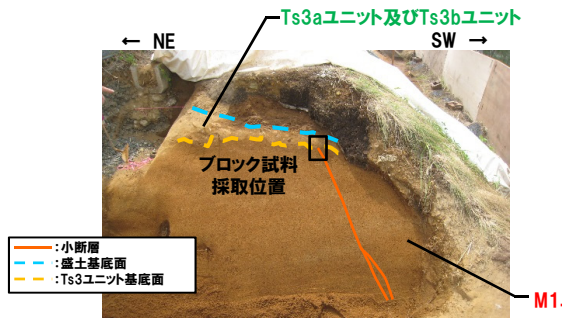


開削調査箇所(南側)

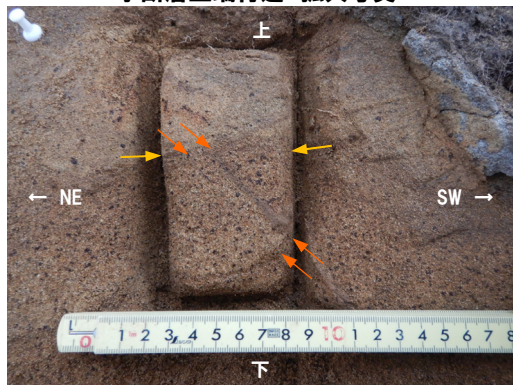
②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(1/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

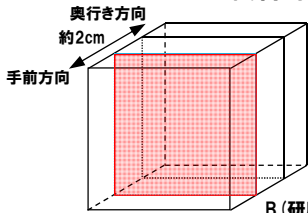
- ブロック試料を用いたX線CT画像観察の結果は、以下の状況が認められることから、研磨片観察の結果(本編資料5.2章参照)と調和的である。
 - ・Ts3aユニット中に、剪断面は認められない。
 - ・Ts3aユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- 複数断面において、同様の状況を確認した。



開削調査箇所(南側) 南側壁面
小断層上端付近 拡大写真

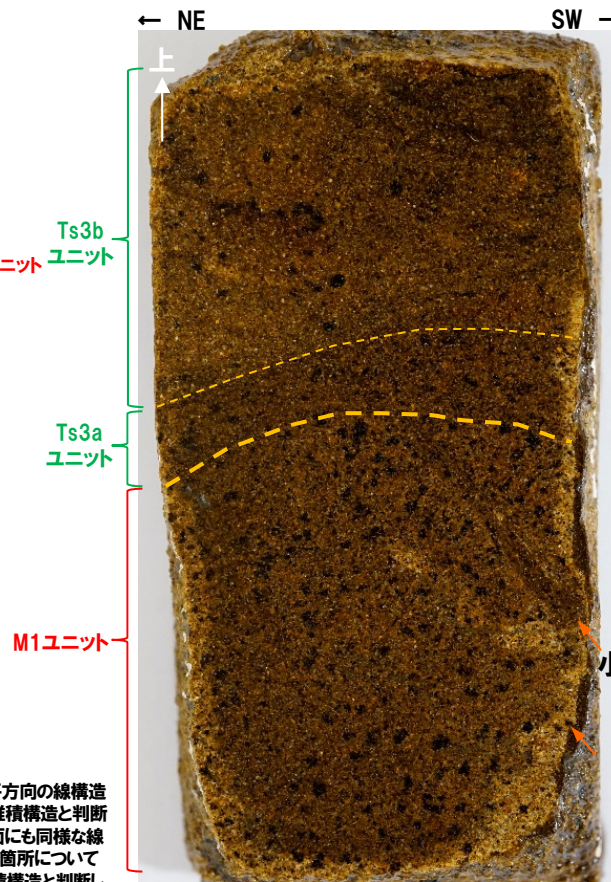


ブロック試料 採取時状況写真



B (研磨片作成位置断面)

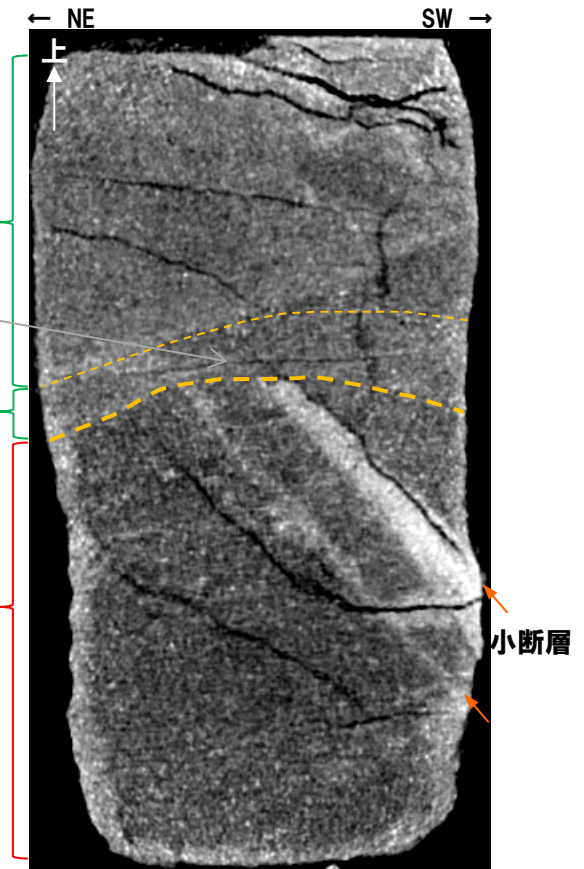
※Ts3aユニット中に認められる水平方向の線構造については、薄片観察の結果、堆積構造と判断される。また、Ts3aユニット基底面にも同様な線構造が認められることから、当該箇所についても併せて薄片観察を実施し、堆積構造と判断している(本編資料P344~P355参照)。



傾斜方向研磨片
(解釈線あり)

5cm

研磨面(前面)(本編資料5.2章参照)



X線CT画像

(傾斜方向断面, 解釈線あり)

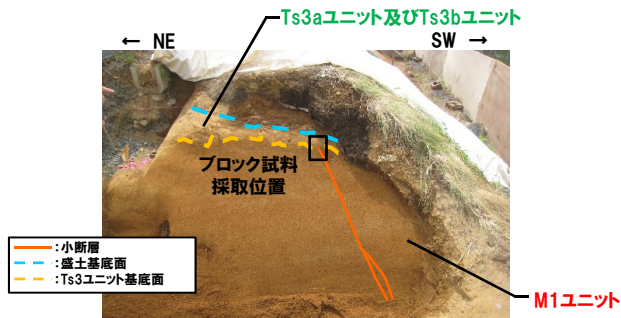
(断面(B): 研磨片作成位置断面)

5cm

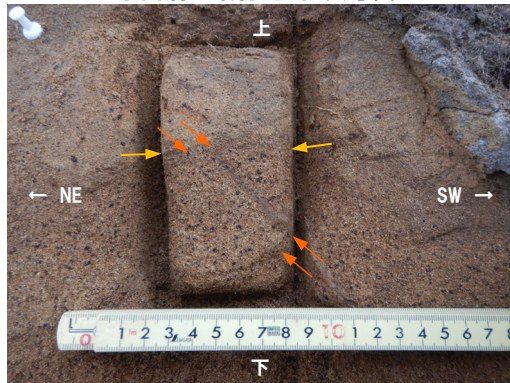
開削調査箇所(南側)

②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(2/6) -

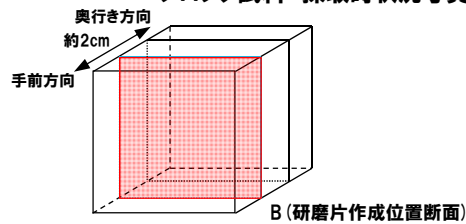
一部修正 (R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側) 南側壁面
小断層上端付近 拡大写真



ブロック試料 採取時状況写真



傾斜方向研磨片
(解釈線なし)

研磨面(前面) (本編資料5.2章参照)

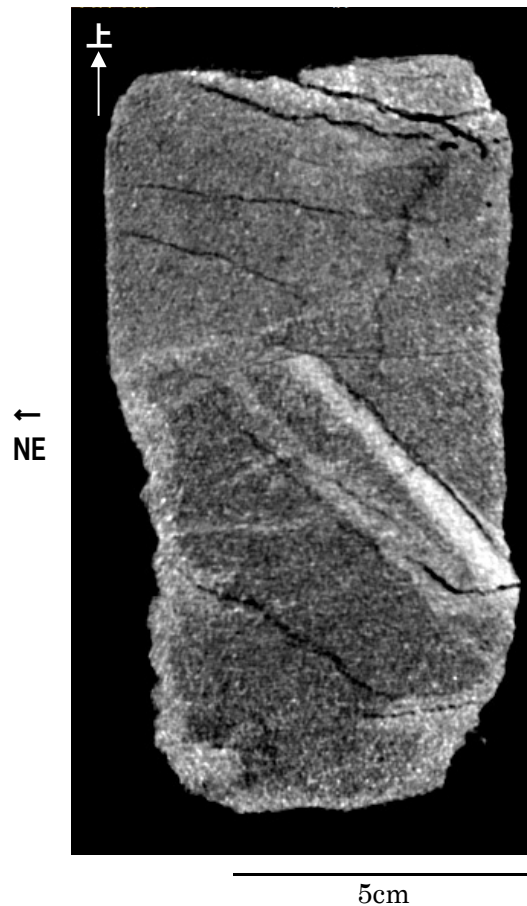


X線CT画像
(傾斜方向断面, 解釈線なし)
(断面(B): 研磨片作成位置断面)

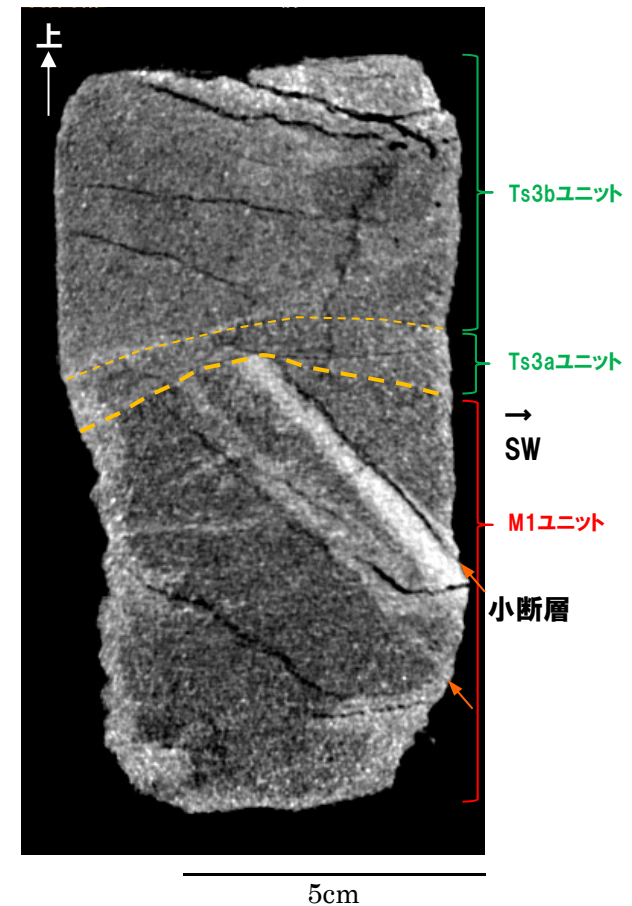
開削調査箇所(南側)

②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(3/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



X線CT画像(傾斜方向断面, 解釈線なし)
 (断面(A): 研磨片作成位置断面から手前方向に約5mmの位置)

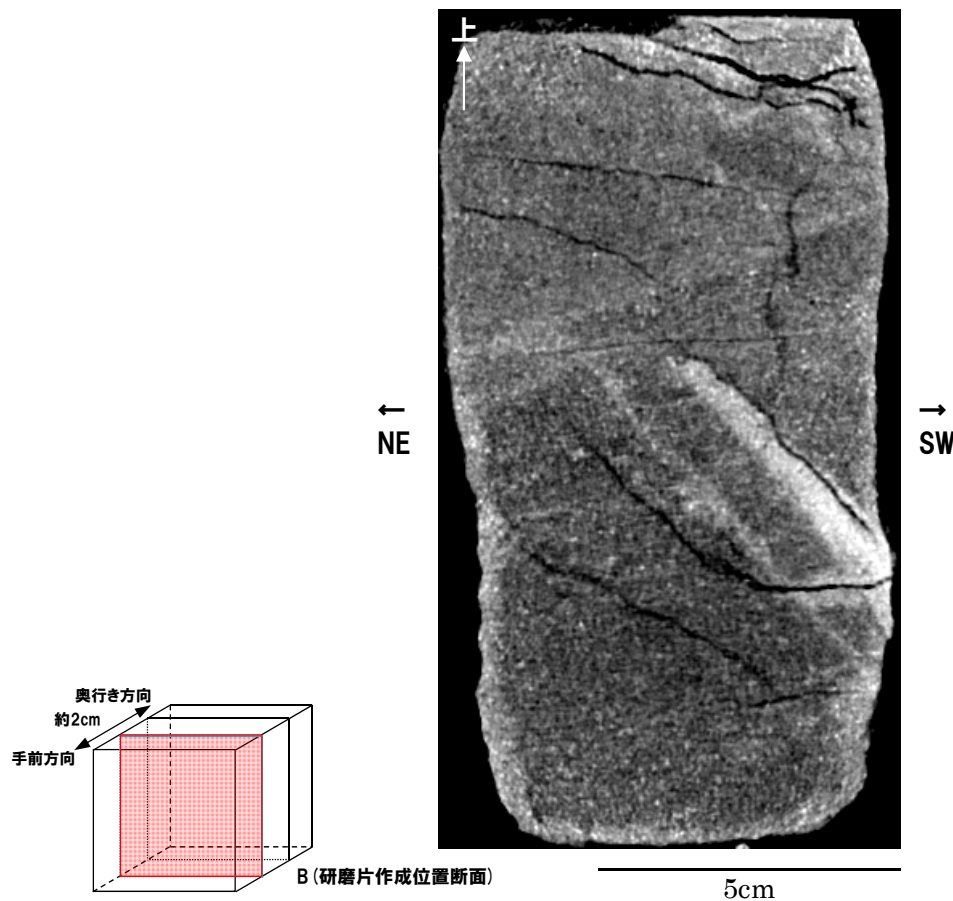


X線CT画像(傾斜方向断面, 解釈線あり)
 (断面(A): 研磨片作成位置断面から手前方向に約5mmの位置)

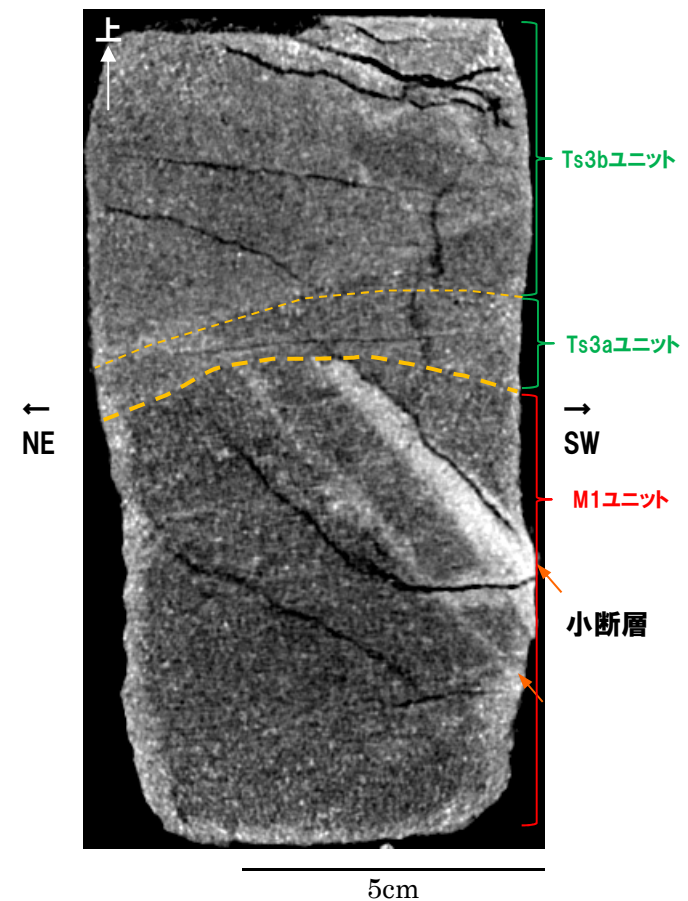
開削調査箇所(南側)

②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(4/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)



X線CT画像(傾斜方向断面, 解釈線なし)
(断面(B):研磨片作成位置断面, P162~P163断面再掲)

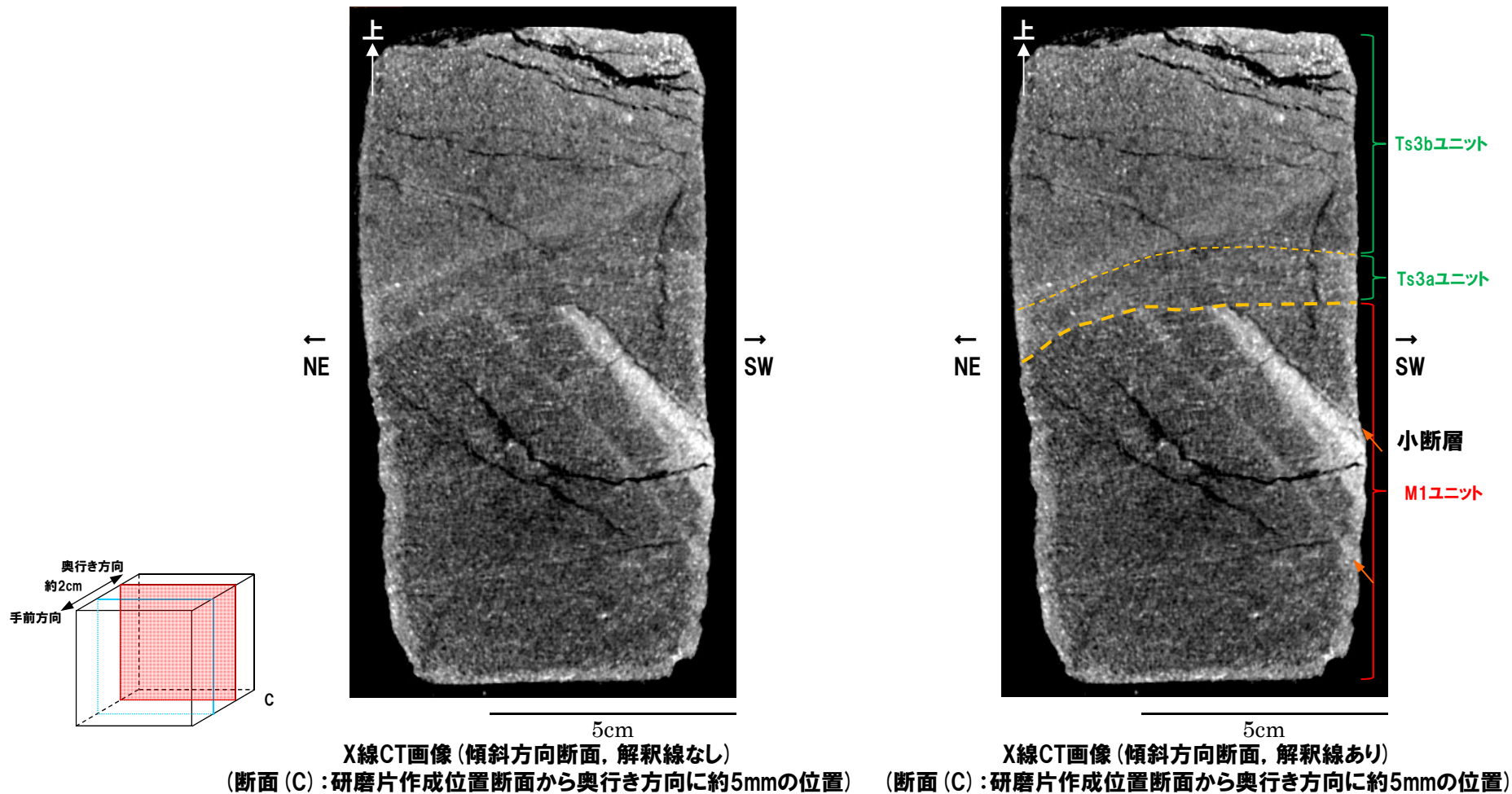


X線CT画像(傾斜方向断面, 解釈線あり)
(断面(B):研磨片作成位置断面, P162~P163断面再掲)

開削調査箇所(南側)

②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(5/6) -

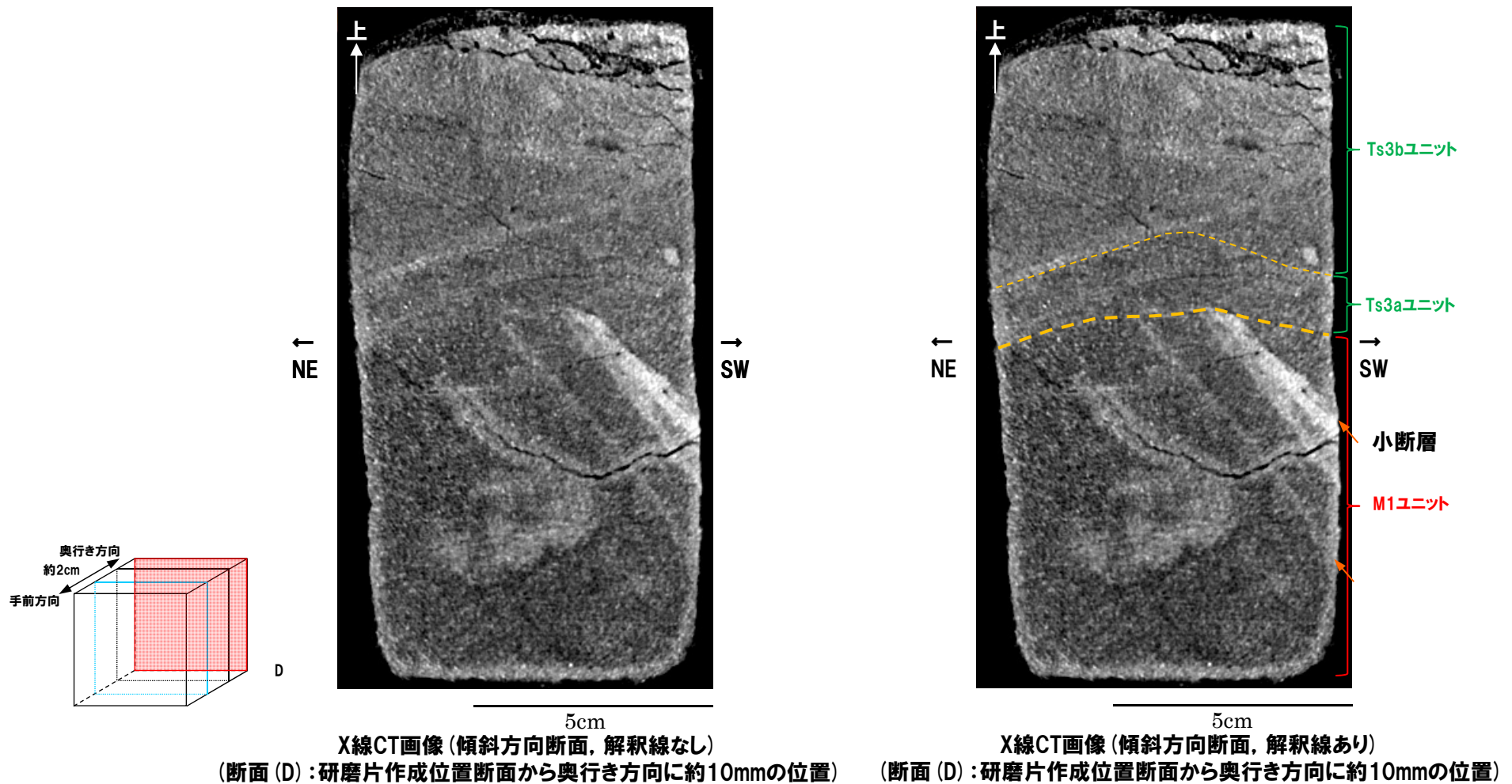
一部修正(R2/4/16審査会合)



開削調査箇所(南側)

②小断層上端付近の詳細観察-X線CT画像観察(6/6) -

一部修正(R2/4/16審査会合)

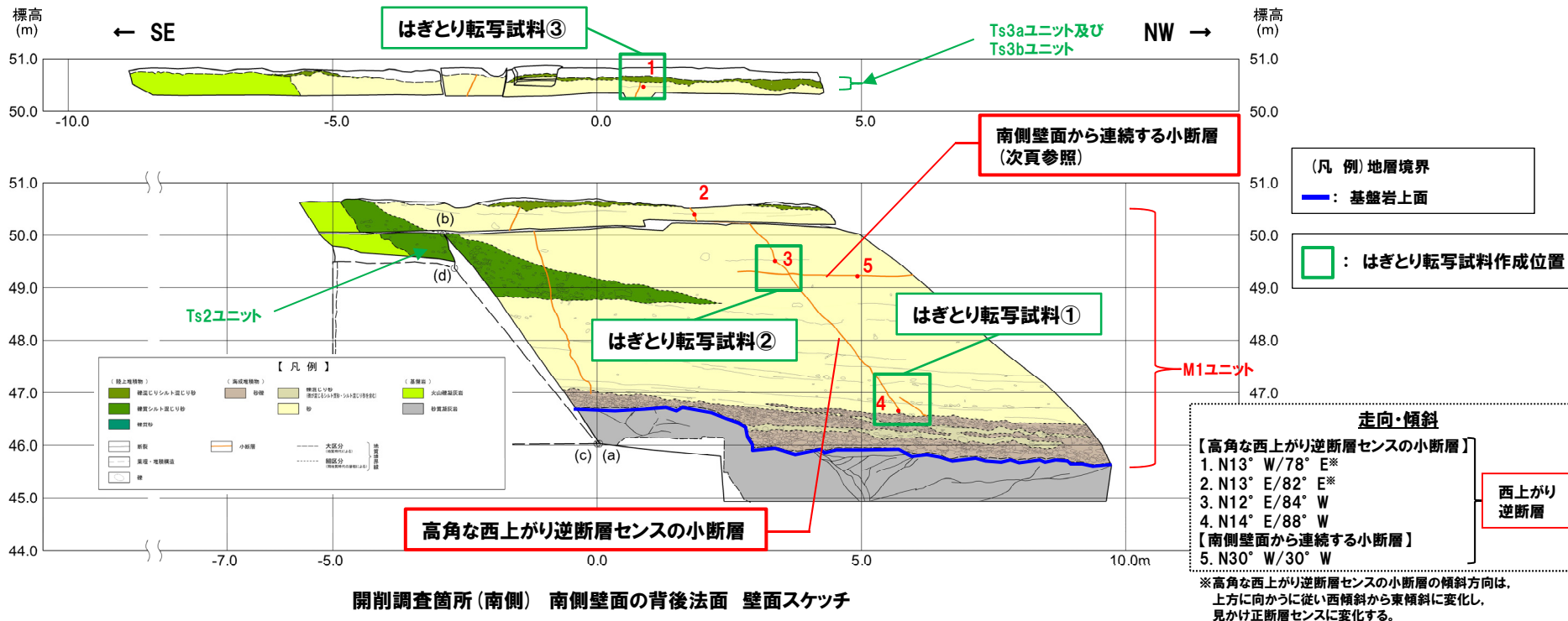


開削調査箇所(南側)

③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (1/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

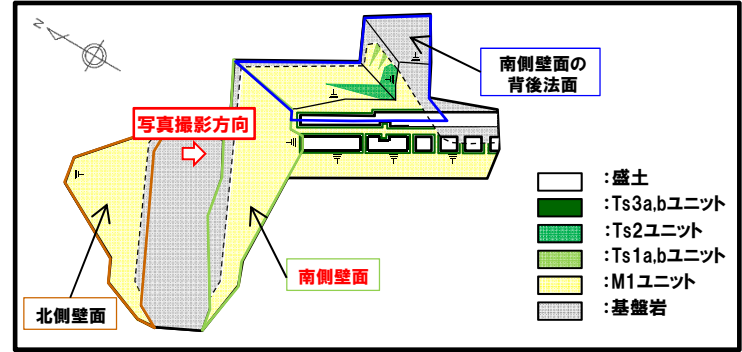
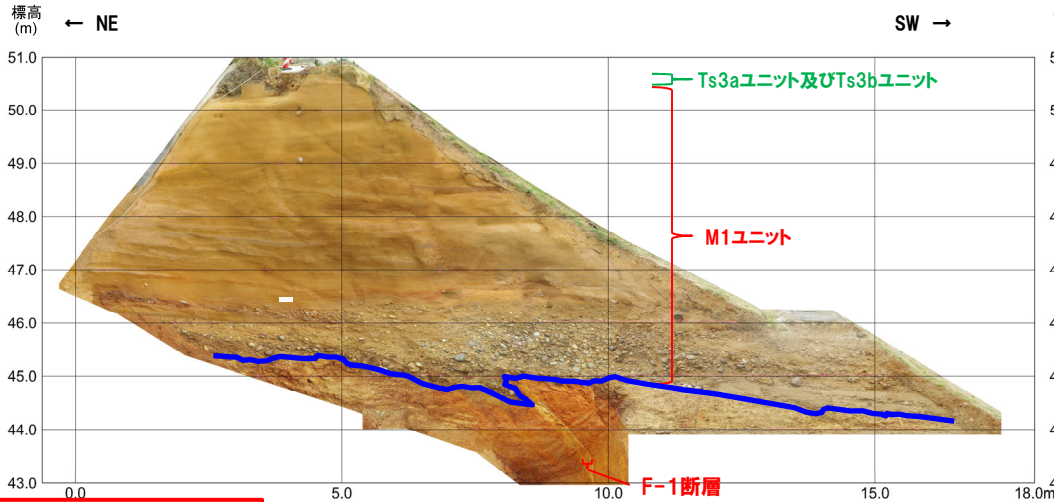
- 南側壁面の背後法面において、小断層 (b) 及び南側壁面から連続する小断層が認められる。
- 小断層 (b) 下端の延長方向において、砂礫層中に剪断面及び堆積構造の乱れは認められない (はぎとり転写試料①, P170参照)。
- 南側壁面から連続する小断層は、小断層 (b) に切られる (はぎとり転写試料②, P171参照)。
- 小断層 (b) は、以下の状況から、Ts3aユニットに変位・変形を与えていないと判断される (はぎとり転写試料③, P172及び本編資料5.2章参照)。
- ・小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Ts3aユニットの基底面直下まで剪断面が連続する。
- ・小断層に見かけ鉛直変位量の減衰は認められない。
- ・Ts3aユニットの基底面に変位は認められない。
- ・Ts3aユニット中に、剪断面は認められない。



開削調査箇所(南側)

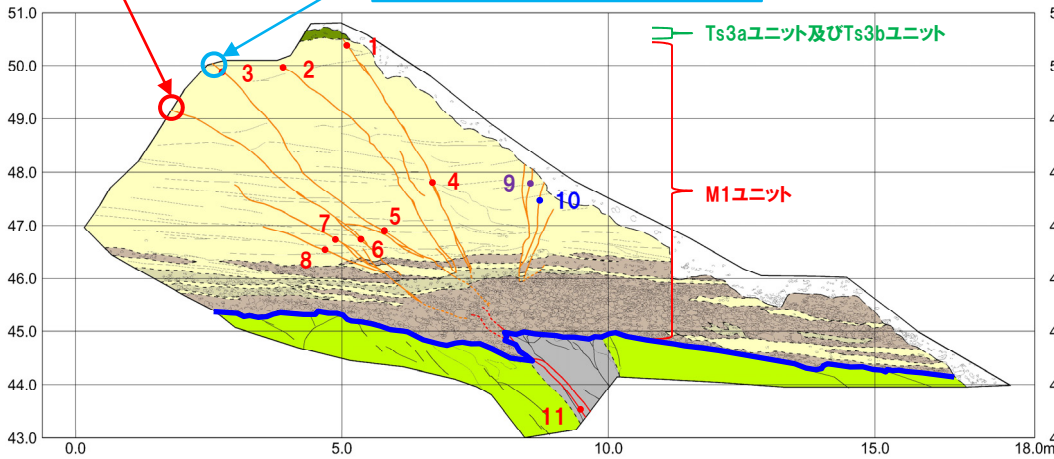
③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (2/6) -

一部修正 (R1/11/7審査会合)



背後法面に連続する小断層 (前頁参照)

小段部に位置しており、背後法面への連続は確認できない。



走向・傾斜

【小断層】

- 1. N20° W/50° W
- 2. N22° E/32° W
- 3. N14° E/40° W
- 4. N32° W/73° W
- 5. N42° W/24° W
- 6. N40° W/46° W
- 7. N46° W/36° W
- 8. N50° W/26° W

西上がり逆断層

- 9. N2° E/80° W

東上がり逆断層

- 10. N2° W/86° W

東落ち正断層

【F-1断層】

- 11. NS/46° W

西上がり逆断層

開削調査箇所(南側) 平面模式図

【凡例】

(地上堆積物)	(海成堆積物)	(基盤岩)
礫混じりシルト混じり砂	砂礫	礫混じり砂 礫が混じるシルト層・シルト混じり砂を含む
砂		砂質凝灰岩
		砂質凝灰岩
断裂	小断層	大区分 (地質時代による)
差埋・堆積構造	F-1断層	細区分 (地質時代の境界による)
碑		

開削調査箇所(南側) 南側壁面 写真及びスケッチ

(凡例) 地層境界
—: 基盤岩上面

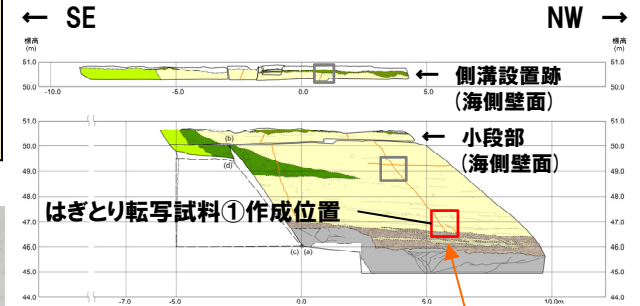
開削調査箇所(南側)

③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (3/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

【小断層 (b) 下端付近の詳細観察結果 (はぎとり転写試料①)】

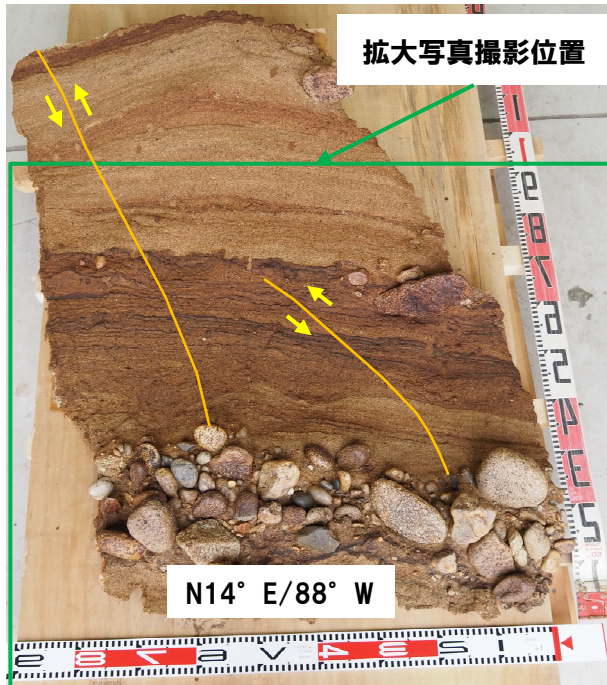
- 当該試料では、高角な西上がり逆断層センスの小断層 (N14° E/88° W) が認められる。
- 小断層下端の延長方向において、砂礫層中に剪断面は認められない。
- 砂礫層中の礫に堆積構造の乱れは認められない。



位置図 小断層 (b) (高角な西上がり逆断層センスの小断層)



はぎとり転写試料① 全体写真
(左右反転, 解釈線なし)



はぎとり転写試料① 全体写真
(左右反転, 解釈線あり)



拡大写真 (左右反転)

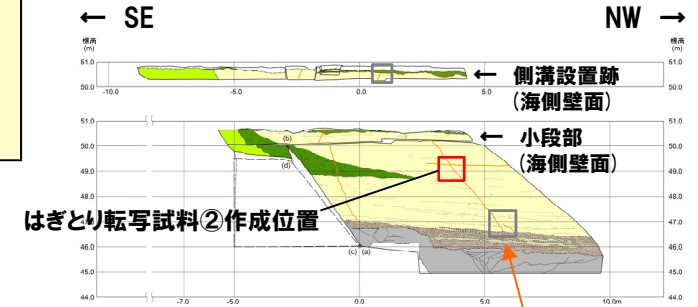
開削調査箇所(南側)

③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (4/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

【小断層会合部付近の詳細観察結果 (はぎとり転写試料②)】

- 当該試料では、小断層 (b) 及び南側壁面から連続するN30° W/30° Wの小断層 (P168~P169参照) が認められる。
- 当該小断層は2条に分岐しており、小断層 (b) に切られている。



位置図 小断層 (b) (高角な西上がり逆断層センスの小断層)



拡大写真撮影位置

はぎとり転写試料② 全体写真 (左右反転)



拡大写真 (左右反転)

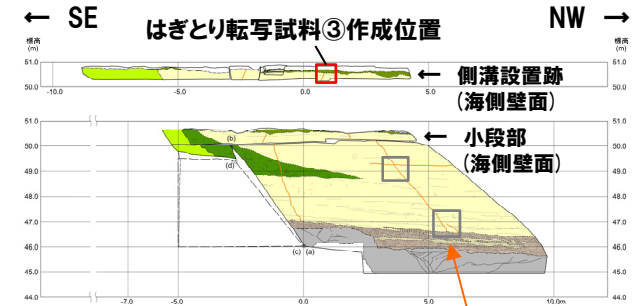
開削調査箇所(南側)

③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (5/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

【小断層上端付近の詳細観察結果 (はぎとり転写試料③)】

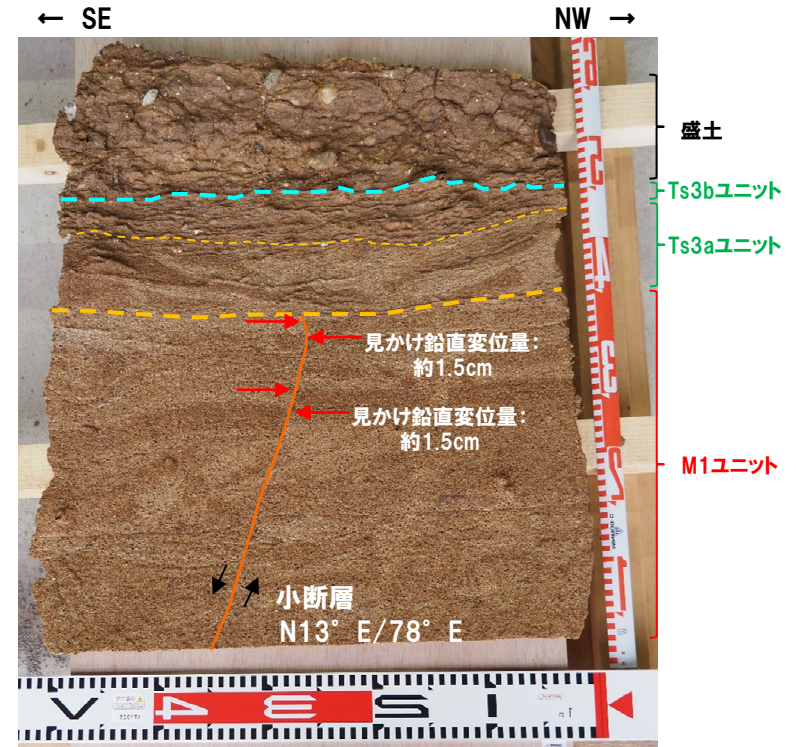
- 当該試料では小断層 (b) の傾斜方向が88° Wから78° Eに変化したことによって、見かけ正断層センスに変化する (P168参照)。
- 当該小断層は、以下の状況から、Ts3aユニットに変位・変形は与えていないと判断される。
 - ・小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Ts3aユニットの基底面直下まで剪断面が連続する。
 - ・小断層に見かけ鉛直変位量の減衰は認められない。
 - ・Ts3aユニットの基底面に変位は認められない。
 - ・Ts3aユニット中に、剪断面は認められない。



位置図 小断層 (b) (高角な西上がり逆断層センスの小断層)



はぎとり転写試料③写真 (左右反転, 解釈線なし)



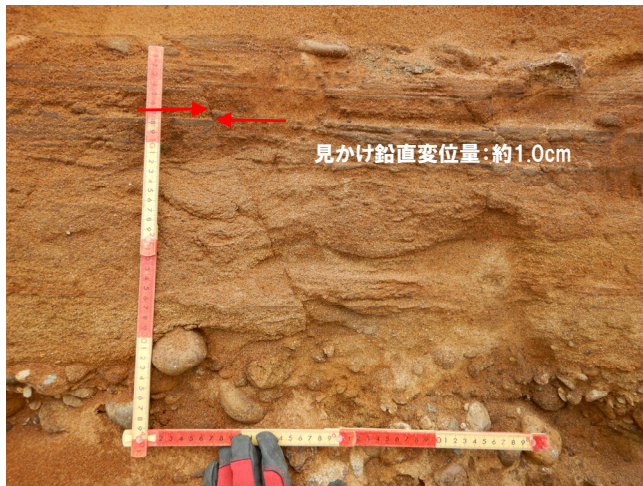
はぎとり転写試料③写真 (左右反転, 解釈線あり)

開削調査箇所(南側)

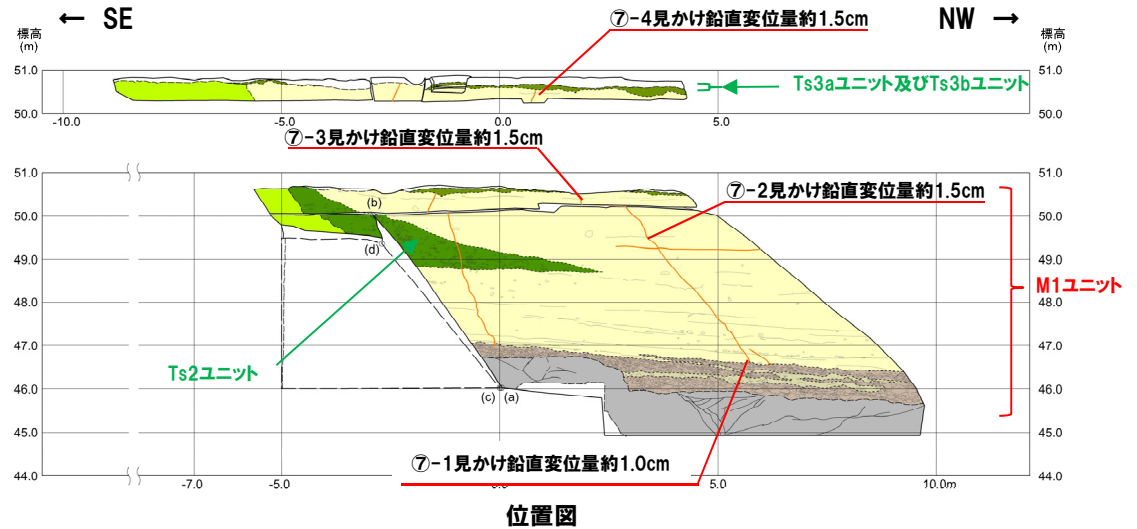
③南側壁面の背後法面天端付近に認められる小断層-小断層 (b) (6/6) -

一部修正 (R2/4/16審査会合)

- M1ユニットの砂層において、見かけ鉛直変位量の累積及び減衰は認められない。
- 小断層 (b) は、Ts3aユニットの基底面直下まで変位を与えている。



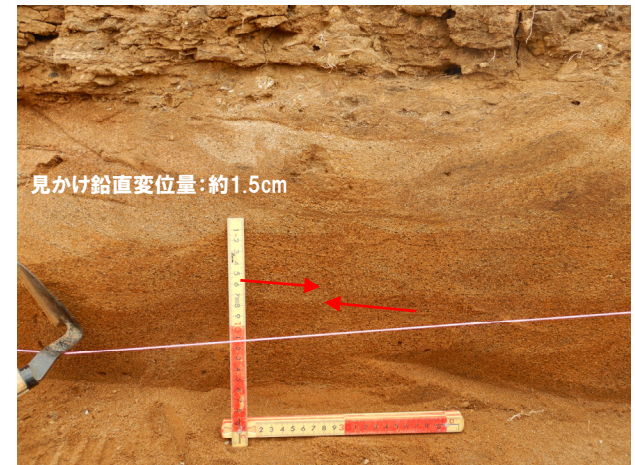
⑦-1 見かけ鉛直変位量測定箇所



⑦-2 見かけ鉛直変位量測定箇所



⑦-3 見かけ鉛直変位量測定箇所



⑦-4 見かけ鉛直変位量測定箇所

余白